| 授業科目名・形態 | 日常生活支援技術演習Ⅸ（住環境）　演習 | 必修・選択の別 | 選択 | 単位数 | 1 |
|---|---|---|---|---|---|
| 科目担当者氏名 | 石岡和志・今野　修 | 実務経験の有無 | 有 | 開講期 | ３年前期 |
| 科目ナンバリング | W4-3027c | | | | |

**【授業の主題】**

尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう根拠に基づいた介護実践を行なうための知識・技術を習得する学習とする。なお本演習では日常生活支援技術のうち、「自立に向けて、その人らしく生活できる住環境の整備」について学ぶ。

**【到達目標】**

1．住まいの多様性を理解するとともに、生活の豊かさや自立支援のための居住環境の整備について基礎的な知識を理解する。
2．各種施設（特養施設、グループホーム、ユニットケア等）の居住環境について理解する。

**【授業計画・内容】**

第 1 回　居住環境整備の意義と目的
第 2 回　「住まい」の役割と機能
第 3 回　家族と生活空間
第 4 回　人と空間
第 5 回　加齢と生活空間
第 6 回　生活環境と室内環境
第 7 回　明るさ・音環境の調整
第 8 回　住まいの維持・管理
第 9 回　日常安全
第 10 回　災害に対する備え
第 11 回　高齢者・障害者の住まい
第 12 回　住まいと地域
第 13 回　住環境整備における多職種連携の必要性
第 14 回　多職種の役割と介護福祉職との連携
第 15 回　まとめ

**【授業実施方法】**

演習形式で行う。

**【事前・事後学習】**

毎回、テキストによる 30 分の予習及び講義内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。講義の性質上、専門用語が多く出るので十分に調べておくこと。

**【主な関連する科目】**介護の基本、社会福祉概論Ⅰ、高齢者福祉論Ⅰ、障害者福祉論Ⅰ

**【教科書等】**

最新・介護福祉士養成講座 6　生活支援技術Ⅰ　第 2 版　中央法規

**【参考文献】**

児玉桂子：高齢者居住環境の評価と計画　中央法規出版

**【成績評価方法】**

授業態度等 10%、レポート等 30%、筆記試験 60%による総合評価とし、60%以上の得点で合格とする。

**【実務経験及び実務を活かした授業内容】**

福祉施設での介護職員としての経験を活かし、ICF に基づいた居住環境が理解できるような実践的な授業にしたい。

**【学生へのメッセージ】**

介護が必要な人のための居住環境を快適にするにはどうすればいいのか考えてみてほしい。